

2014年度 申11号

年末手当

に関する申し入れ 第1回交渉実施する!

勝ち取るぞ!

組合 職場で奮闘する組合員の声を受け、
要求の根拠・正当性を堂々と主張!

- ◇第2四半期決算としては、連結・単体の経常利益・四半期純利益が過去最高を記録している。上期の鉄道営業収入は対前年 100.2%と前年を上回ることが出来た。
- ◇営業職場の子会社化の見直し施策などの効果が出てきていることも見逃せない。組合員の経費削減努力、増収努力の結果が素晴らしい成績を収めている。
- ◇経済の持続的発展と、JR 東日本の発展のため、黒字企業としての社会的役割・責務を果たすべきだ。景気が良くなれば鉄道収入も上がる。企業の持続的成長は、現場で働く組合員の協力、努力なくしてあり得ない。
- ◇現場に足を運んで本気で現場の声に耳を傾け、目をこらし、現場の空気を感じ取ってほしい。今後の交渉の中でしっかり伝えていく。
- ◇今回は基準内賃金 3.4ヶ月+5万円を要求した。定額で求めたのは、若い人と上位職との格差を是正するため。
- ◇悪い条件を並べるのではなく、会社は率直に支給すべきだ!
組合員の頑張りをしっかりと受けとめ、満額回答を要請する!!

会社 回答は「営業費用の増加、先行きが不透明」を繰り返すのみ

- ① 営業収益は、東日本大震災で大きく落ち込んだが、回復基調にあるといえる。ピークの平成4年度、リーマンショック直前の平成20年度にも届いていない。事実認識として必要だ。
- ② 鉄道事業は固定費の占める割合が大きい。営業費用の大幅な増加は懸念材料だ。
- ③ 営業費用は労務単価の上昇などによる物件費の増加、減価償却費の増加など過去最高の水準になる。収入の確保とコストダウンが必要だ。
- ④ 東日本大震災により、当社の取り巻く環境が大きく変貌し、少子高齢化、国内産業の空洞化、地域経済の疲弊など従来からの課題が一層顕在化している。
- ⑤ 年末手当は、上半期の業績に加え取り巻く環境について勘案して慎重に判断する。

次回交渉は11月7日10:30~
満額回答に向け、交渉してまいります!